

子宮頸がんの99%がヒトパピローマウイルスの感染が原因

HPV 検査のご案内

ヒトパピローマ
ウイルス



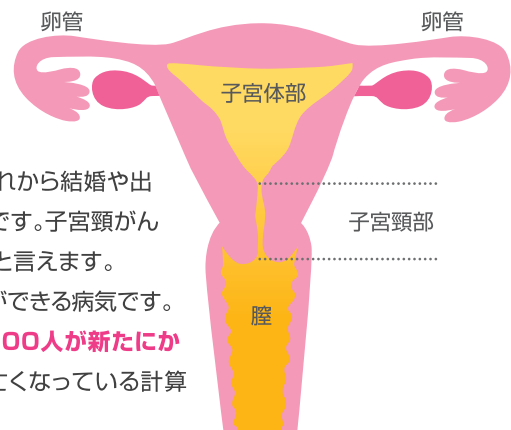
精度の高い子宮頸がん検診を受けましょう！
液状化検体細胞診(LBC)採取液を用いたハイブリッドキャプチャー法

20～30代の若い女性に、 子宮頸がんが増えています。

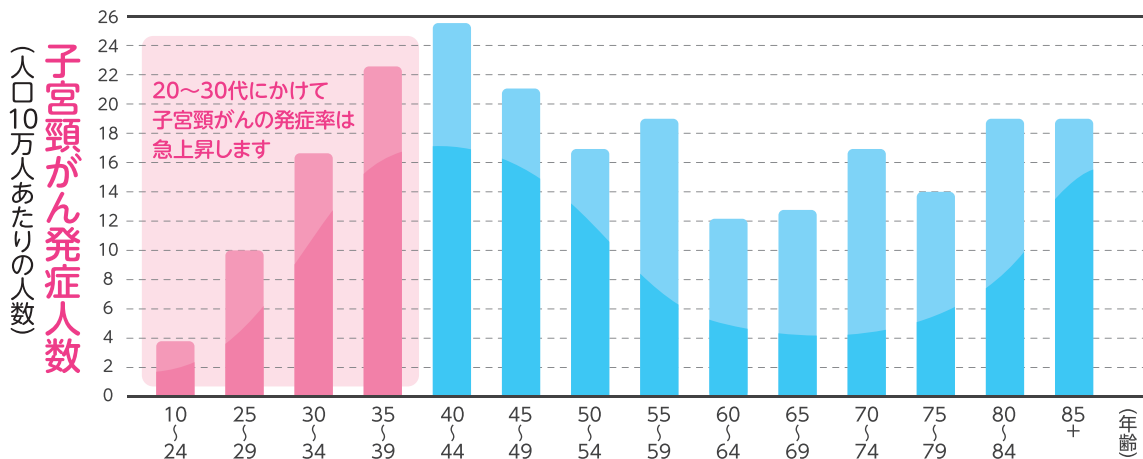
子宮頸がんは近年、20代や30代の若年層で増加傾向にあり、これから結婚や出産を迎える年代の女性や、幼い子供を持つ母親にとって深刻な問題です。子宮頸がんは、若い女性の妊娠や出産の可能性、健やかな日常生活を奪うがんと言えます。

子宮頸がんは、子宮の入り口である子宮頸部の表面の細胞にがんができる病気です。女性特有のがんとしては乳がんの次に多く、**日本では毎年約15,000人が新たにかかり、約3,500人が亡くなっています。**これは、1日に約10人が亡くなっている計算になります。

たとえ死亡に至らないまでも、ごく初期のがんを除いては子宮全摘が施行され、その場合は妊娠や出産ができなくなることはもちろん、排尿障害などの後遺症やQOL(生活の質)低下に悩まされることもあります。



日本人女性における子宮頸がんの発症状況(2006)



メディックス広島健診センター

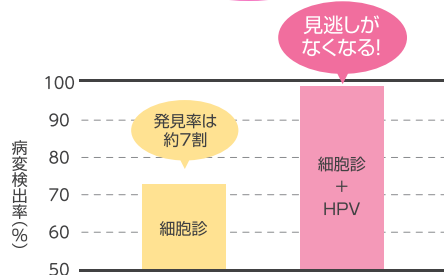
一般財団法人 広島県集団検診協会

前がん病変を確実に発見するためには「細胞診」と「HPV検査」の併用をお勧めします。

子宮頸がんの99%以上がHPV(ヒトパピローマウイルス)の持続感染が原因であることが解明されています。細胞診と併せてHPV検査を実施することにより、前がん病変の段階でほぼ確実に発見することができます。

早期治療で、ほぼ100%の治癒が期待できます。

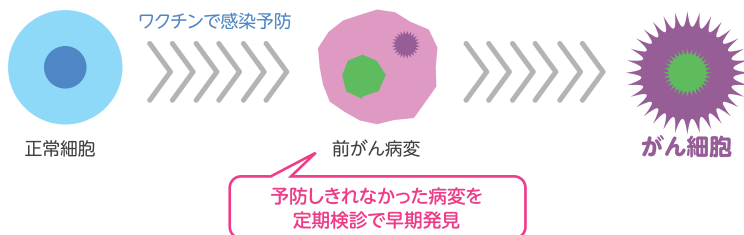
1回の採取で細胞診とHPV検査が可能



子宮頸がんは予防できます。

子宮頸がんは、HPV(ヒトパピローマウイルス)という主に性交渉で感染する、ごくありふれたウイルスで引き起こされます。感染してもほとんどの場合は免疫の力で自然消滅しますが、がんを誘発するハイリスク型のHPVに長期にわたり感染が持続した場合、がんに進行する可能性もあります。

初期には自覚症状はありませんが、検診を受けることで早期発見できます。



細胞診とHPV検査をセットで受けましょう!

子宮頸がんを予防する新しい検診方法

細胞診

子宮入口の細胞をブラシで採取して回収し、細胞の状態をみてがん細胞が存在するか、またがんになりそうな細胞(前がん病変)が存在しているかどうかを調べます。新しい方法である液状化検体細胞診(LBC)は、より精度の高い標本作製が可能でまた1度の採取でHPV検査を行うことができます。

+

HPV検査

子宮頸がんの主な原因となる14種類のハイリスク型HPVに感染しているかどうかを調べる検査です。液状化検体細胞診(LBC)で採取した細胞を利用して検査します。



● ● ● ● お問い合わせ・お申し込みはメディックスにご相談ください ● ● ● ●

検査名

「HPV検査」

対象者

子宮頸がん細胞診を受診される方 (HPV検査のみは不可)

料金

4,000円 (税抜)



一般財団法人 広島県集団検診協会

メディックス広島健診センター

広島市中区大手町1丁目5番17号 TEL 082-248-4115

メディックス広島

検索